SEIKO WATCH CORPORATION
www.grand-seiko.com

BSJ9SCCH-2501
Printed in Japan

GS
Grand Seiko

Mechanical

Operating Instructions

この度はグランドセイコーをお買い上げいただき、
誠にありがとうございました。
ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、
正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、
弊社お客様相談室へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくは
お取扱いいただけない場合があります。

商品に傷防止用の保護シールが貼られている場合があります。
必ずはがしてお使いください。貼られたままにしておくと、汚れ、汗、ごみ、
水分などが付着してさび発生の原因となります。

目次

■ はじめに ～機械式時計について～ 2
- 機械式時計の特徴とは 3
- 機械式時計と長く付き合うために 5

■ 精度に関するご注意 8
■ 製品取り扱い上のご注意 9
■ キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い 10
■ 防水性能に関するご注意 11
■ 各部の名称 15
■ ご使用方法 18
- りゅうずについて 18
- パワーリザーブ表示について 19
- ご使用方法（9S85、9S68、9S65、9S27 の場合） 20
- ご使用方法（9S86、9S66 の場合） 22
  ※ 世界の主な地域の時差一覧 29
- ご使用方法（9S64、9S63 の場合） 30
- ご使用方法（9S61 の場合） 32

■ ダイバーズモデルの機能 33
- 回転ベゼルの使いかた 33
- ダイバーアジャスターについて 34

■ グランドセイコー規格について 35
- グランドセイコー規格検定合格証明書について 37
- 機械式時計の精度についてご注意事項 38

■ ご注意いただきたいこと 39
- アフターサービスについて 39
- 保証について 40
- お手入れについて 41
- バンドについて 42
- 耐磁性能について（磁気の影響） 43
- ルミブライトについて 44
- こんなときには 45

■ 製品仕様（ムーブメント） 46

■ はじめに ～機械式時計について～

この度はグランドセイコーメカニカルウオッチ（機械式時計）を
お買い上げいただき誠にありがとうございます。

まずは、そっと手にとり、その鼓動に耳を傾けてください。
コチコチコチという、微かでやさしく、
けれども厳かな響きが聞こえてくると思います。
それは、長年にわたり受け継がれてきた
職人たちの技と魂の結晶ということができるでしょう。
厳選された数多くの部品を、熟練の技で一つひとつ、丹念に組み上げ、
生命を吹き込まれた証の音なのです。

さて、機械式時計は、正確さにおいて、
確かにクオーツ時計にはかないません。
しかし、人の手による精度の追求、
そこには職人たちの心と叡智がぎっしりとつまっています。

複雑で繊細で、しかも人間味あふれる機械式時計。
私たちは、その限りない魅力を多くの方々に知っていただきたく、
精度に関わるポイントを中心に、まとめました。
グランドセイコーと共に、末永く
素敵な時間を過ごしていただけることを願いながら。

セイコーウオッチ株式会社

クオーツと機械式。どう違う？

身近な例でお話しましょう。

日頃慣れ親しんでいるクオーツ時計。
これは、いわば、コンピュータで制御された
飛行機のようなもの。
電池と IC と水晶によって、電気的にとても
正確な時間をつくりだします。

使用している間には多少の誤差も生じますが、それは私たちの一日一日の生活の中では分かりにくいほど小さなものです。

クオーツが飛行機だとすると、
機械式は自転車に似ているでしょうか。

すべての部品が機械的に働きあい、
時間を刻み出しています。
したがって、周囲の環境にも大きく影響されるのです。

暑ければ一般に遅れがちになり、
パワー不足（ぜんまいの巻き上げ量が少ない）
のときは精度が不安定になります。
時計の姿勢（向き）が変わると、精度も変わります。

その誤差は、
私たちの一日一日の生活の中でもわかるくらいに大きくなることもあるのです。

メカの精度は日差。

一日あたりの時計の進み・遅れの実測値。
それを、日差と言います。

機械式の精度は、この日差で表示されるのが普通です。

機械式の精度は、ご使用条件や外部環境の違いなどで、毎日微妙に変化します。

そのため、ある一日だけの進み／遅れを見ただけでは、
その時計の精度の実力を判断できません。

一週間から 10 日程度にわたって進み／遅れを見て、
その平均値から判断するのが正しいのです。

> ちなみに、クオーツの精度は、月差や年差が一般的。
> 一ヶ月あるいは一年間でのトータルの誤差をクオーツの
> 精度と呼んでいます。

静的精度と携帯精度

機械式時計の精度は、
ぜんまいの巻き上げ量、
温度、姿勢（時計の向き）などによって変化します。

そこで、その機械式時計の実力を環境に左右されず、公平に示すために、ケースに組み込む前のムーブメント単体の状態で、一定条件に管理された環境の中何日もかけて進みや遅れを測定します。
その実測値を「静的精度」と呼んでいます。

国際規格 ISO3159 もグランドセイコー規格検定※も、その規格値は、静的精度なのです。
※グランドセイコー規格検定について詳しくは P.35 をお読みください。

この数値、
機械式時計の実力を、環境の変化に影響されずに公平に評価・表示するために、人工的に管理された環境で計測したデータなので、実際にお使いいただいた時の精度「携帯精度」とは異なります。

環境の違いによって、
毎日微妙に変化する、機械式時計の精度。
それは、まるで生き物にも似て、ひとつの面白さになっているんですね。

> グランドセイコーの携帯精度は、一日あたり－1～＋ 10 秒（9S86、9S85 の場合は－1～＋ 8 秒、9S27 の場合は－5～＋ 10 秒）の範囲を目安としております。この目安を超える場合には、調整をおすすめします。精度調整をなるべく正しく行うには、お客様のご使用状況、そのときの具体的な進み／遅れが重要な情報になります。したがいまして、ご依頼の際には同時に次の内容についてもお知らせくださいますようお願いします。
>
> (1) ご使用一週間～10 日間での一日あたり平均の進み・遅れ
> 例：「平均＋ 11 秒」など
>
> (2) 上記使用期間中の、一日のおおよその着用時間
> 例：「約 10 時間」など
>
> (3) 腕から外して置いておく時の時計の向き
> 例：「文字板を上にして平らに」「りゅうずを上にして立てて」など

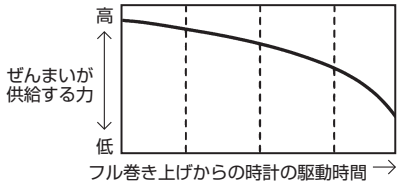
機械式時計と長く付き合うために　ルールその１

決まった時間にぜんまいを巻く。

物ごとすべてにルールがあるように、
ぜんまいの巻き方にもルールがあります。

初耳ですか？
でも、覚えてくださいね。

機械式時計のエネルギーであるぜんまい。
充分に巻かれた状態が、最も安定した
エネルギーを各部品に供給でき、
時計の精度も最も安定するのです。



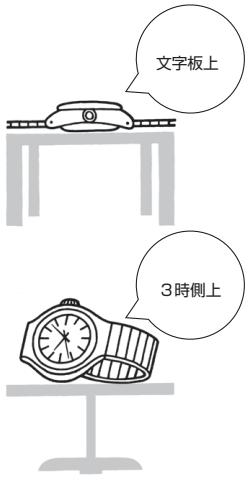
自動巻きでも、精度が安定していないな、と感じるときは、りゅうずを回して、ぜんまいを巻き足してください。
デスクワークなどが多く運動が少ない時は、ぜんまいが充分に巻き上がらないものです。
手巻きの場合は、
毎日同じ時刻にりゅうずを回して、
ぜんまいを充分に巻き上げてください。

より良い精度を保つためには、
一日一回、決まった時間に
ぜんまいを巻き上げる。
できるだけ、守ってくださいね。

たとえば、
起床時やお昼休みなどをぜんまいを
巻く時間と決めておくのも良いでしょう。

機械式時計と長く付き合うために ルールその２

時計の置き方は、このように。



一日 24 時間の生活の中、ほぼ半分は時計を腕から外しておくでしょう。その間の精度も含めたものが「携帯精度」です。

腕から外した機械式時計。
さぁ、どのような姿勢で置いておけばよいのでしょうか。

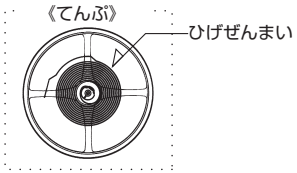
機械式時計は、姿勢（向き）の違いによって、進み／遅れが変わります。
進み気味になる向きもあれば、そうならない向きもあります。

夜、寝ている間など腕から外しておくときは、文字板を上にしたり、りゅうずを上にしたり、様々な向きで 7～8 時間置いてみて、あなたが腕に着用しているときの進み／遅れを少なくできるような置き方を見つけてください。

機械式時計と長く付き合うために ルールその３

暑さ寒さで精度も変わる。

髪の毛なみに細い
約 0.1 ミリの金属を巻いたもの。
それが、機械式時計の精度の要
ひげぜんまいです。



温度変化によって伸び縮みする
金属本来が持つ特性は、
ひげぜんまいにもあてはまり、
時計の精度に影響を与えます。
つまり、暑さの中では、
ひげぜんまいが伸び、
遅れがちになり

寒さの中では、ひげぜんまいが
縮み、進みがちになるのが
一般的です。

機械式時計と長く付き合うために ルールその４

磁気の強い場所に近づけない。

時計を外しておくとき、携帯電話の隣や、
パソコンやテレビの上に置いていませんか。
バッグの中に、携帯電話と一緒に入れていませんか。

時計は磁気が嫌いです。
磁力の影響で、進んだり遅れたりすることがあります。

機械式時計をより良い精度でお使いいただくには、磁力に長時間近づけないことが大切です。

特に携帯電話やテレビ、パソコンのスピーカー部は、強い磁力を発しています。
ほかにも、磁気ネックレスやハンドバッグの口金、冷蔵庫のマグネット部分など、私たちの日常には、強い磁力を発するものがたくさんあります。

ご注意ください。

機械式時計と長く付き合うために　ルールその５

強い衝撃は避ける。

ゴルフでも
テニスでも
野球でも

腕に強いインパクトがかかる
スポーツをする時は、
機械式時計を外してください。

理由があります。

例えば、ゴルフのインパクトの瞬間、
クラブがボールに当たる衝撃は約 1 トン。

その衝撃が手首に伝わり、機械式時計内部の
微細な部品に影響を与えるのです。

時として、部品を変形させ
壊れることもあります。

ナイスショットは、時計にとって、
バッドショックになるんですね。

機械式時計と長く付き合うために ルールその６

3〜4 年ごとにオーバーホール。

愛は 3〜4 年ごとに。
オーバーホールのお話です。

電池交換のいらない機械式時計でも、
メンテナンスは欠かせません。

3〜4 年程度に一回は、
分解点検・掃除に出してあげてください。

着け始めれば一度も休むことのない時計です。

しかも機械式時計は、クオーツ時計に
比べて歯車に伝達される力が強いため、
部品が摩耗していたり、潤滑油が乾き、
不足してる箇所があるかもしれませんね。

特に、使い始めの 3〜4 年間は
それぞれの部品が馴染む期間で、部品同士が
当たることで出る磨耗紛なども多いのです。

最初のオーバーホールが
その後の機械式時計の一生を決めます。

3〜4 年ごとのオーバーホール
どうぞ、忘れずに。

それは、時計への愛
といえるかもしれません。

■精度に関するご注意

○機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件(一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など)によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。
○お客さまが携帯使用される場合の精度は、一日あたり－1～＋ 10 秒(9S86、9S85 の場合は－1～＋ 8 秒、9S27 の場合は－5～＋ 10 秒)の範囲を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から 10 日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整をおすすめします。(詳しくは P.35 をご覧ください。)
○同梱のグランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。
紛失された場合、または修理・調整後の再発行はできません。

■製品取り扱い上のご注意

⚠警告 取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示します。

次のような場合、ご使用を中止してください

○時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合
○バンドのピンが飛び出してきた場合
※すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談室にご連絡ください。

乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

⚠注意 取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示します。

以下の場所での携帯・保管は避けてください

○揮発性の薬品が発散しているところ(除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど)
○5℃～35℃を外れる温度に長期間なるところ　○高湿度なところ
○磁気や静電気の影響があるところ　○ほこりの多いところ
○強い振動のあるところ

アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

その他のご注意

○金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。
○商品の分解・改造はしないでください。
○乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。
○提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。
○時計を外してそのまま置くと、裏ぶたとバンドや中留が擦れて、裏ぶた表面に傷が付く可能性がありますのでご注意ください。時計を外した場合は、柔らかい布等を挟んでおくことをおすすめします。

■ キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い

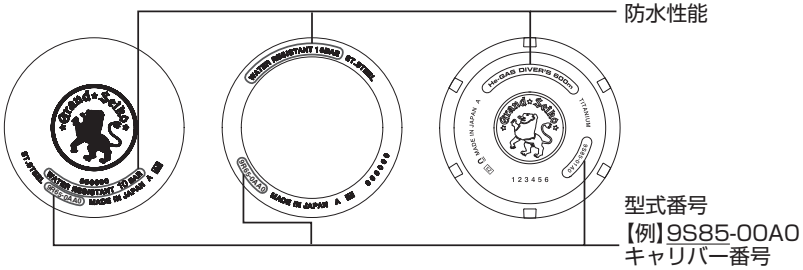
キャリバーについて

ムーブメント（時計の機械体）の型式を表す 4 桁の番号です。グランドセイコーには専用のムーブメントが搭載されており、メカニカルキャリバーは 9S、スプリングドライブキャリバーは 9R、クオーツキャリバーは 9F、8J、4J から始まる 4 桁で表されます。

確認方法

裏ぶたに記載の型式番号 4 桁がキャリバー番号となります。

<通常の裏ぶたの場合>　<シースルー仕様裏ぶたの場合>　<ダイバーズモデルの裏ぶたの場合>



※上記の図は例であり、お買上げいただいた時計とは異なる場合があります。

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取り扱い方法
防水性能表示なし	非防水です。	水滴がかかったり、汗を多くかく場合には、使用しないでください。
WATER RESISTANT	日常生活用防水です。	日常生活での「水がかかる」程度の環境であれば使用できます。 **⚠警告** 水泳には使用しないでください。
WATER RESISTANT 5 BAR	日常生活用強化防水で 5 気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。
WATER RESISTANT 10 (20) BAR	日常生活用強化防水で 10(20)気圧防水です。	空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。
DIVER'S WATCH 200m あるいは AIR DIVER'S 200m	空気潜水用防水で 200 メートル防水です。	空気ボンベを使用するスキューバダイビングに使用できます。
DIVER'S WATCH 600m FOR SATURATION DIVING あるいは He GAS DIVER'S 600m	飽和潜水用防水で 600 メートル防水です。	ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用できます。

※表示の位置やデザインは、モデルによって異なる場合があります。

■ 防水性能に関するご注意

⚠ 注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください

時計内部に水分が入ることがあります。
※万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。
お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談室にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

性能表示が「WATER RESISTANT」の場合

⚠ 警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠ 注意

直接蛇口から水をかけることは避けてください

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

性能表示が「DIVER'S WATCH 200m」あるいは「AIR DIVER'S 200m」の場合

⚠警告
- ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。
- 潜水中は、本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。

⚠注意 ダイビングでのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、ルールを守ってご使用ください。

性能表示が「DIVER'S WATCH 600m FOR SATURATION DIVING」あるいは「He GAS DIVER'S 600m」の場合

⚠警告
- 本製品は飽和潜水に対応しています。飽和潜水に必要不可欠な経験と技術を有し、本製品の操作と取り扱いを完全にマスターし、毎回の潜水前に本製品を点検してください。そうでなければ、本製品を使用する飽和潜水は行わないでください。
- 文字板や裏ぶたの深度表示をしっかりと確認し、それ以上深い場所でのご使用はお避けください。
- 潜水中は、本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。

⚠注意 ダイビングでのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、ルールを守ってご使用ください。

潜水に際しての注意事項（空気潜水時、飽和潜水時共通）

○ 潜水前

次の項目を点検してください。
「各部の名称」→ P.15

① 時刻が正確にセットされているか。

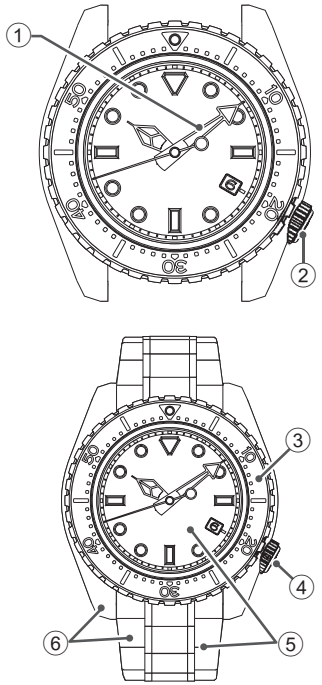
② 潜水中に止まらないよう、りゅうずを回して、十分にぜんまいを巻き上げてください。
「ねじロック式りゅうずについて」→ P.18
「ぜんまいの巻きかた」→ P.20

③ 回転ベゼルの回り具合は良好か。（ゆるすぎたり、きつすぎたりしないか。）
「回転ベゼルの使いかた」→ P.33

④ りゅうずのねじをしっかりしめてあるか。
「ねじロック式りゅうずについて」→ P.18

⑤ バンドとガラスにひび、欠けなどの異常がないか。

⑥ バンドの固定は確実か。（ばね棒、中留、その他）

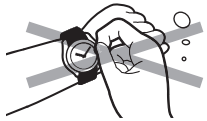


⚠注意 万が一、異常が認められた場合はお買い上げ店、またはお客様相談室にご相談ください。

○ 潜水中

次の項目をご確認の上、ご使用ください。

文字板などに記された深度までの範囲でご使用ください。



水中でのりゅうずやボタンの操作はしないでください。

岩などにぶつけないように注意してください。

回転ベゼルは水の中ではやや回転がきつくなることがありますが、異常ではありません。

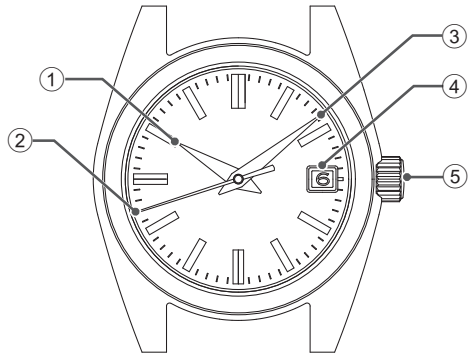
○ 潜水後

潜水後のお手入れは、次のように行ってください。

必ず真水でよく洗ってから、ふき取ってください。
直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

■ 各部の名称

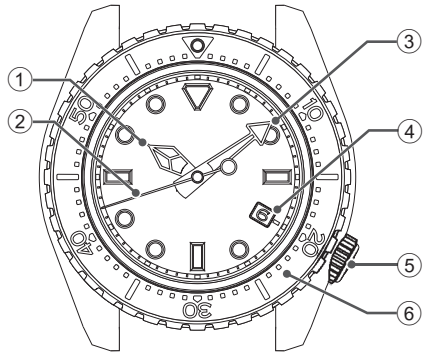
9S85、9S68、9S65、9S27(標準タイプ)



① 時針
② 秒針
③ 分針
④ 日付
⑤ りゅうず

時刻・日付の合わせかた→ P.20

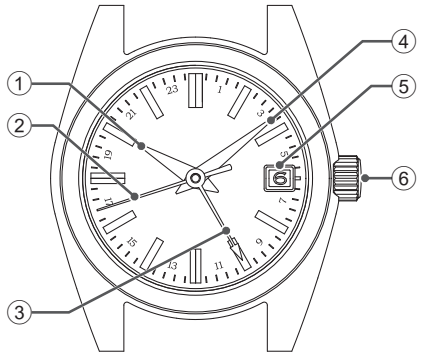
9S85(ダイバーズタイプ)



① 時針
② 秒針
③ 分針
④ 日付
⑤ りゅうず
⑥ 回転ベゼル

時刻・日付の合わせかた→ P.20
ダイバーズモデルの機能→ P.33
潜水に際しての注意事項→ P.13

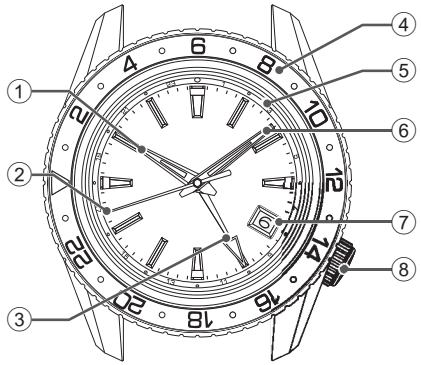
9S86、9S66(標準タイプ)



① 時針
② 秒針
③ 24 時針
④ 分針
⑤ 日付
⑥ りゅうず

時刻･日付の合わせかた→ P.22

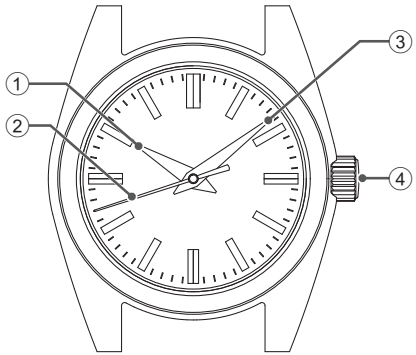
9S86(回転ベゼルタイプ)



① 時針
② 秒針
③ 24 時針
④ 回転ベゼル
（24 時間表示付）
⑤ 文字版外周リング
（24 時間表示付）
⑥ 分針
⑦ 日付
⑧ りゅうず

時刻･日付の合わせかた→ P.22
回転ベゼルの使いかた→ P.33

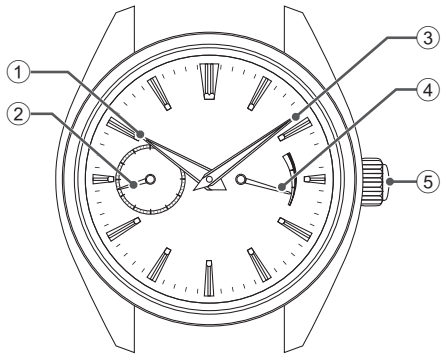
9S64、9S61



① 時針
② 秒針
③ 分針
④ りゅうず

時刻の合わせかた→ P.32

9S63



① 時針
② 秒針
③ 分針
④ パワーリザーブ表示針
⑤ りゅうず

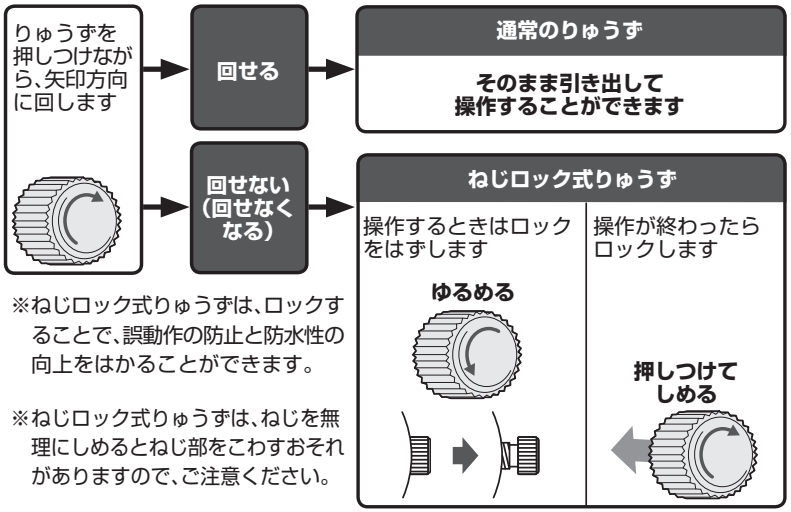
時刻の合わせかた→ P.31
パワーリザーブ表示について→ P.19

※表示の位置やデザインは、モデルによって異なる場合があります。

■ ご使用方法

りゅうずについて

りゅうずには、通常のものとロックできる構造のものの、2 つのタイプがあります。
お使いの時計のりゅうずをご確認ください。



※ねじロック式りゅうずは、ロックすることで、誤動作の防止と防水性の向上をはかることができます。

※ねじロック式りゅうずは、ねじを無理にしめるとねじ部をこわすおそれがありますので、ご注意ください。

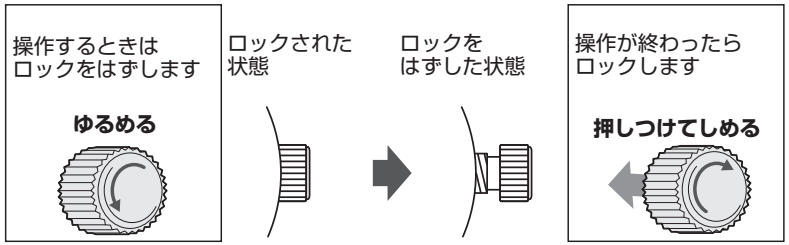
※りゅうずは時々回してください。→ P.41

ねじロック式りゅうずについて

誤動作の防止と防水性の向上のために、使わないときはりゅうずをねじでロックできる構造です。
○ りゅうずを操作するときはロックをはずしてください
○ 操作が終わったらロックをしてください

【ロックのはずしかた】
りゅうずを左方向(6 時方向)に回してください。ねじがゆるんで、りゅうずが操作できるようになります。

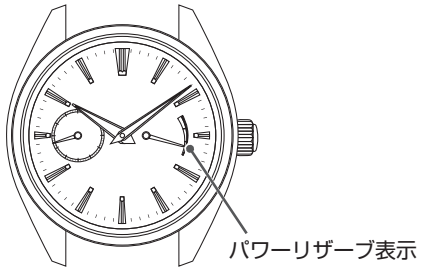
【ロックのしかた】
りゅうずを時計本体に軽く押しつけながら、右方向(12 時方向)に止まるところまで回してください。



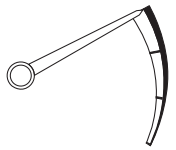
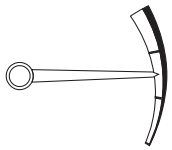
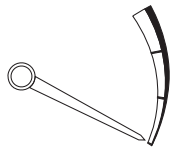
※ロックをするときは、ねじのかみあい具合に注意してゆっくりと押しながら回してください。無理に押し込むと、ねじ部(ケース)を壊す恐れがありますのでご注意ください。

パワーリザーブ表示について

パワーリザーブ表示で、ぜんまいの巻き上げ状態(残量)のめやすが確認できます。
時計を腕からはずして置いておくときは、次に使用(携帯)するときまで動き続けるかどうかをパワーリザーブ表示で確認し、必要に応じてぜんまいを巻き上げておきましょう。
(時計を止めないようにして使い続けるためには、余裕を残して巻き上げるようにしましょう。)



パワーリザーブ表示の見かた

パワーリザーブの表示			
ぜんまいの状態	フル巻き上げ	半分程度	巻き上げなし
持続時間	約 72 時間 (約 3 日間)	約 36 時間 (約 1 日半)	時計が止まっている または 止まる直前の状態

※この時計のぜんまいは、必要以上に巻き上がらない構造になっています。
フル巻き上げの状態から更にりゅうずを回しても、ぜんまいはそれ以上巻き上がりません。
りゅうずを回し続けても時計が壊れることはありませんが、無理な操作はお控えください。

ご使用方法(9S85、9S68、9S65、9S27の場合)

ぜんまいの巻きかた

○この時計は、自動巻機械式時計(手巻つき)です。
○ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻き上がります。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くことができます。
○止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にして、日付と時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向(12時方向)にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向(6時方向)では空回りするようになっています。
9S85の場合はりゅうずを約45回転、9S68、9S65の場合は約60回転、9S27の場合は約30回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日10時間以上携帯することをおすすめします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

⚠注意

○時刻表示が午後10時から午前1時までの間(9S27の場合は午後11時から午前1時までの間)、日付の修正をしないでください。
この時間帯に日付を修正しますと、翌日になっても日付が切り変わらないことや、故障の原因となる場合があります。
○機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

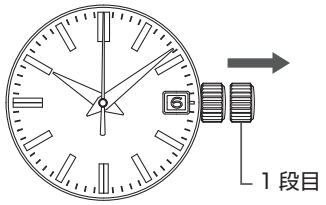
時刻・日付の合わせかた

この時計には、日付表示機能がついています。24時間に1回、日付を一日分送るようになっています。
日付は、「午前0時」ごろ送るようになっています。よって、午前午後をまちがえて時刻合わせをしてしまいますと、お昼の12時ごろに日付が変わってしまいます。

① りゅうずを1段目まで引き出してください。
(ねじロック式の場合は、ロックを解除してください。)

② りゅうずを右方向(12時方向)に回すことで、日付の修正ができます。
まず、合わせたい日の前日の日付に合わせます。

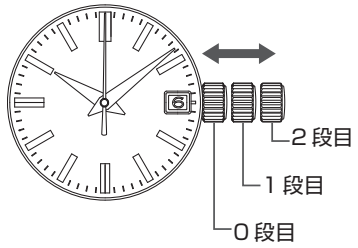
【例】 合わせる日付が「6日」の場合、「5日」に合わせます。



③ りゅうずを2段目まで引き出します。
秒針が「12時」の位置にきたときに引き出してください。(秒針が止まります。)
りゅうずを、針が進むよう左方向(6時方向)に回し、日付が今日の日付になるまで回してください。日付が変わると「午前」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

④ 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービス TEL.117が便利です。

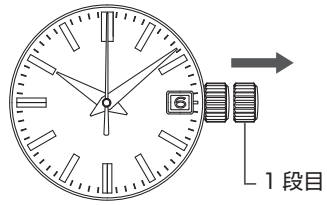


⚠注意　ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

月末の日付修正について

2月(一カ月が28日、うるう年は29日)と小の月(一カ月が30日)では日付の修正が必要になります。

【例】 小の月の翌月1日の朝、日付を修正する場合
「1日」ではなく「31日」が表示されています。りゅうずを1段目に引き出してください。りゅうずを右方向(12時方向)に回し、日付を「1日」に合わせ、りゅうずを押し込んでください。



⚠注意　ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

ご使用方法(9S86、9S66の場合)

ぜんまいの巻きかた

○この時計は、自動巻機械式時計(手巻つき)です。
○ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻き上がります。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くことができます。
○止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にして、日付と時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右方向(12時方向)にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向(6時方向)では空回りするようになっています。
9S86の場合はりゅうずを約45回転、9S66の場合は約60回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

※ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日10時間以上携帯することをおすすめします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

時刻・日付の合わせかた

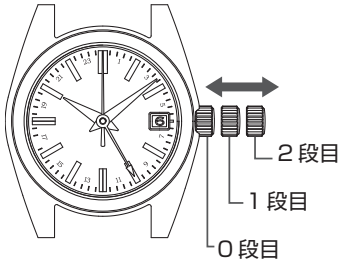
○時刻・日付を合わせるときは、24時針と分針を最初に合わせ、その後で時針と日付を合わせます。
○必ずぜんまいが巻き上げられた状態で、時刻合わせをしてください。

時刻の合わせかた

① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

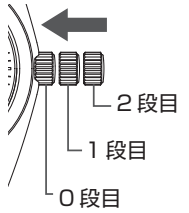
② りゅうずのロックを外してください。
「ねじロック式りゅうずについて」→ P.18

③ 秒針が0秒位置にあるときにりゅうずを2段目まで引き出し、秒針を止めます。

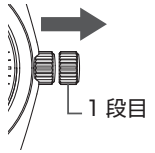


④ 時計回りに針が進むように、りゅうずを左方向(6時方向)に回し、分針と24時針に注目しながら時刻を合わせます。
合わせたい時刻の手前から、分針をゆっくり進めて合わせてください。
※時針が、合わせたい時刻とは異なる時刻を指しているときや、時針の位置によって日付が変わることがありますが、まず先に、分針と24時針を合わせましょう。

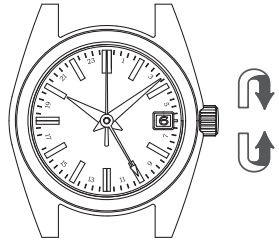
⑤ 時報などに合わせてりゅうずを押し込みます。
※これで24時針、分針、秒針が合った状態になります。



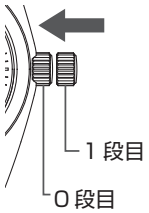
⑥ 次に、時針と日付を合わせます。りゅうずを1段目まで引き出してください。



⑦ りゅうずを回して時針を合わせます。
りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前0時です。午前・午後を確認して時刻を合わせましょう。
日付を合わせたいときは、ここで一緒に合わせてください。
※りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。



⑧ りゅうずを押し込むと操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
「ねじロック式りゅうずについて」
→ P.18



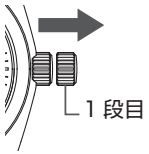
日付の合わせかた

日付を合わせるには、時針を 2 周させて一日分の日付修正を行います。
時針を、時計回りに 2 周(24 時間分)回すと「日を送る」ことができます。
逆に回すと「日を戻す」ことができます。
※小の月(2、4、6、9、11 月)が終わった翌日などに日付合わせを行ってください。

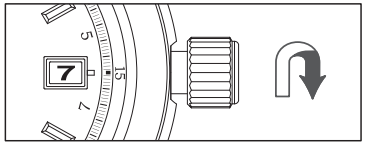
① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※日付・時刻を合わせるときは、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックを外してください。
「ねじロック式りゅうずについて」
→ P.18

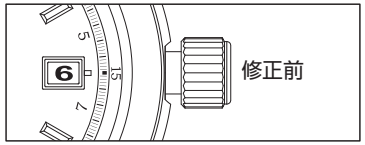
③ りゅうずを 1 段目まで引き出してください。



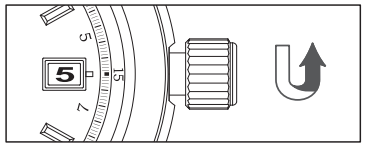
④ りゅうずを回して、時針を 2 周させるごとに、日付が「一日分」修正されます。
りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前 0 時です。
午前・午後を確認して合わせましょう。



右方向(12 時方向)に回す:
時針を 2 周させると日付が一日送られます。



※りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※りゅうずはゆっくりと回してください。
※時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。



左方向(6 時方向)に回す:
時針を 2 周させると日付が一日戻ります。

⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認してりゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
「ねじロック式りゅうずについて」→ P.18

※この操作では時針と日付が連動して動きます。
そのため、時刻の午前・午後が合っていないと、日付が半日ずれることがあります。
※りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ日付修正が少ない方向で合わせてください。
※りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

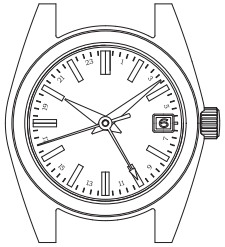
24 時針の使いかた

24 時針には以下の 2 つの機能があります。

タイプ 1 ： 午前・午後を区別する

時分針が示す時刻を 24 時間制で表示する
(通常の使いかた)

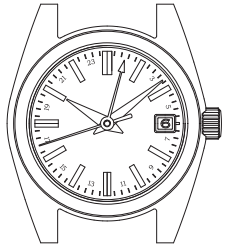
時分針、24 時針ともに日本時間(午前 10 時)



タイプ 2 ： デュアルタイムとして使う

時差修正機能を使って、時分針が示す時刻とは異なる地域の時刻を表示する
(一時間以上の時差がある地域の時刻)

時分針 ： 日本時間(午前 10 時)
24 時針 ： ロンドン時間(午前 1 時)



時差修正機能について

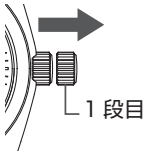
時差のある地域へ移動するときなどに、簡単に目的地の時刻に合わせられます。操作のときに時計を止めることがありません。
時針は目的地の時刻を示し、24 時針は元の地域の時刻を示します。
時針は日付と連動しているため、正しい操作が行なわれると目的地の日付を表示します。

時差修正機能の使いかた

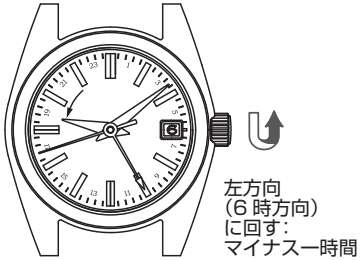
① ぜんまいが巻き上げられた状態で、時計が動いていることを確認します。
※操作は、必ず時計が動いている状態で行ってください。

② りゅうずのロックを外してください。
「ねじロック式りゅうずについて」
→ P.18

③ りゅうずを 1 段目まで引き出してください。



④ りゅうずを回して目的地の時刻に合わせます。
午前・午後、日付を確認して合わせましょう。
※この操作では時針と日付が連動して動きます。
そのため、時刻の午前・午後が合っていないと、日付が半日ずれることがあります。
「世界の主な地域の時差一覧」→ P.29



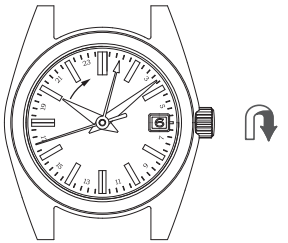
※りゅうずはどちらの方向へも回せますが、できるだけ修正が少ない方向で合わせてください。
※りゅうずを回すときは、時針の一時間単位の動きを確認しながら、ゆっくりと回してください。
※りゅうずを回したときに日付が変わるところが午前 0 時です。
※時針を合わせているときに、他の針が少し動くことがありますが故障ではありません。

⑤ 操作が終わったら、時刻が合っているかどうかを確認してりゅうずを押し込んでください。これで操作は完了です。
りゅうずをロックしてください。
「ねじロック式りゅうずについて」→ P.18

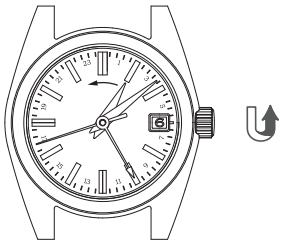
※午後 9 時～午前 1 時の時間帯に時刻を合わせるときは、時針を午後 8 時まで戻してから合わせてください。

目的別の使いかた

時差修正機能を使うと、2 つの地域の時刻を表示させるデュアルタイムとしてお使いいただけます。表示のしかたは二通りあり、目的によって使い分けることができます。



【例 1】
時針・日付 ： A 地域(日本)
24 時針 ： B 地域(ロンドン)



【例 2】
時針・日付 ： B 地域(ロンドン)
24 時針 ： A 地域(日本)

24 時針を合わせた後で、時針を合わせます。

回転ベゼルの使いかた

モデルによって、ベゼル（ガラスの縁部）が両回転方式の場合がございます。
この場合、回転ベゼル上の「24 時間表示」を利用して、時針で示す時刻とは違う 2 つめの、または 3 つめの他地域の時刻を表示させることができます。

【例】 時針で日本時間午前 10 時 08 分を表示し、24 時針で「パリとバンコク、2 つの異なる地域」の時刻を表示させたい場合

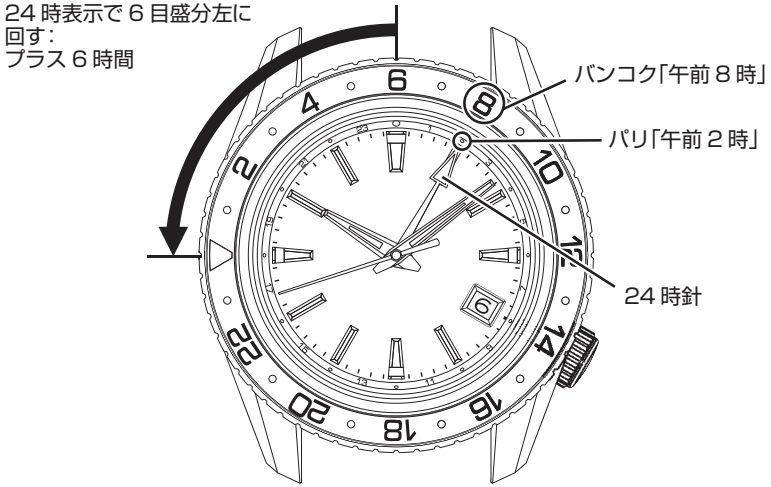
※バンコクの時刻表示に回転ベゼルの「24 時間表示」を利用したい場合

① まず、回転ベゼルの ▽ 印を 12 時位置に合わせてください。

② 次に、「時差修正機能について」→ P.26 を参照の上、時分針を午前 10 時 08 分に、24 時針を回転ベゼルの「2」に合わせます。
日本に対してパリの時差は「-8 時間」（サマータイム適用時期以外）となります。

③ パリに対してバンコクの時差は「+6 時間」（サマータイム適用時期以外）ですので、回転ベゼルの ▽ 印を 24 時間表示で 6 時間分左に回します。
この時、パリは文字板（または文字板外周リング）の 24 時間表示で「午前 2 時」、バンコクは回転ベゼルの 24 時間表示で「午前 8 時」と読み取ることができます。

※「世界の主な地域の時差一覧」→ P.29



世界の主な地域の時差一覧

都市名	協定世界時（UTC）からの時差	日本標準時（JST）からの時差	その他の地域
東京	+9 時間	0 時間	ソウル
北京	+8 時間	-1 時間	香港、シンガポール
バンコク	+7 時間	-2 時間	ジャカルタ
ダッカ	+6 時間	-3 時間	
カラチ	+5 時間	-4 時間	
ドバイ	+4 時間	-5 時間	
ジッダ	+3 時間	-6 時間	バグダッド
カイロ	+2 時間	-7 時間	★アテネ
★パリ	+1 時間	-8 時間	★ローマ、★ベルリン
★ロンドン	0 時間	-9 時間	
★アゾレス諸島	-1 時間	-10 時間	
★リオデジャネイロ	-3 時間	-12 時間	
サントドミンゴ	-4 時間	-13 時間	
★ニューヨーク	-5 時間	-14 時間	★モントリオール
★シカゴ	-6 時間	-15 時間	★メキシコシティ
★デンバー	-7 時間	-16 時間	
★ロサンゼルス	-8 時間	-17 時間	★バンクーバー
★アンカレッジ	-9 時間	-18 時間	
ホノルル	-10 時間	-19 時間	
ミッドウェー島	-11 時間	-20 時間	
★ウェリントン	+12 時間	+3 時間	★オークランド
ヌーメア	+11 時間	+2 時間	
★シドニー	+10 時間	+1 時間	グアム

※★印の地域ではサマータイムが導入されています。
※各地域の時差およびサマータイムの有無は、2019 年 1 月時点の情報に基づいております。これらは、国または地域の都合により変更される場合があります。

ご使用方法(9S64、9S63の場合)

ぜんまいの巻きかた

○この時計は、手巻機械式時計です。
○ぜんまいを十分に巻き上げるために必要なりゅうずを回す回数は、次表を目処にしてください。

ぜんまいを毎日巻き上げてご使用する場合	りゅうずを約 20 回転回すことにより十分巻き上げることができます。
3 日以上巻き上げなかった場合	りゅうずを約 60 回転回すことにより十分巻き上げることができます。

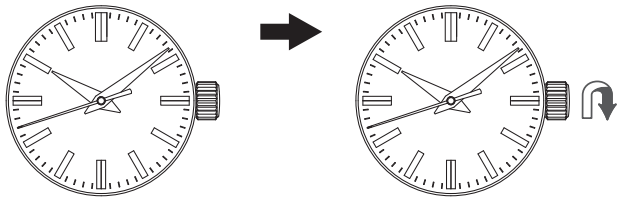
○機種 9S63 は、巻き上げ状態(残量)をパワーリザーブ表示で確認してください。
「パワーリザーブ表示について」→ P.19
○ぜんまいが十分に巻き上げられた状態での可動時間は約 72 時間です。
○ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になります。より良い精度でご使用いただくためには、ぜんまいを毎日一定の時刻に十分に巻いてご使用されることをおすすめします。

一般的な多くの手巻時計は、りゅうずを回してぜんまいの巻き上げが完了すると、りゅうずはそれ以上回転しません。機種 9S64、9S63 は巻き上げが完了してもりゅうずは止まらず回転させることができますが、りゅうずを巻く感触が重くなるように機構上で配慮してあります。なお、りゅうずを回転し続けても時計が壊れることはありませんが過剰な操作はお控えください。

※ぜんまいが解けて止まった状態からお使いの場合、りゅうずでぜんまいを巻き上げても直ぐには動きません。機械式時計の特徴でぜんまい巻き始めのぜんまいトルク(力)が弱いためです。ぜんまいが巻かれてある程度の強いトルクに達すると秒針が動き始めますが、早めに動かすためには、時計を振りてんぷを強制的に回転させることで動かすことができます。

りゅうずは引き出さないでください。
(ねじロック式の場合は、ロックを解除してください)

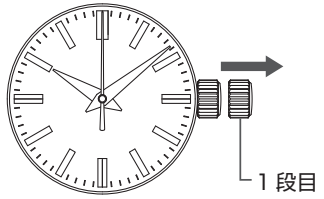
りゅうずを右方向(12 時方向)にゆっくり回して、ぜんまいを巻き上げます。



⚠注意 ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。
秒針が「12 時」の位置にきたときに引き出してください。(秒針が止まります。)
りゅうずを回して時刻を合わせてください。



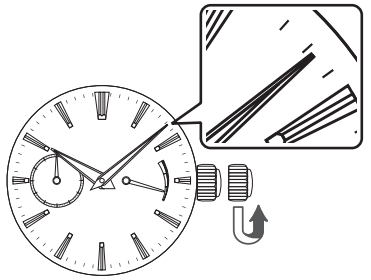
② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。
※時刻合わせは、電話の時報サービス TEL.117 が便利です。
※表示の位置やデザインは、モデルによって異なる場合があります。

より正確に時刻を合わせるために(9S63の場合)

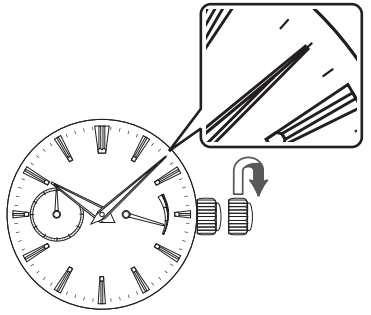
9S63 の構造上、下記の点に注意しながら操作していただくとより正確に時刻が合わせられます。

① りゅうずを 1 段目まで引き出します。
秒針が「12 時」の位置にきたときに引き出してください。(秒針が止まります。)

② りゅうずを、左方向(6 時方向)に回し、分針を合わせたい時刻の四分の一程度進めた位置で止めます。



③ りゅうずを、右方向(12 時方向)に回し、分針を合わせたい時刻に戻します。



④ 静かにりゅうずを 0 段に戻します。

ご使用方法(9S61 の場合)

ぜんまいの巻きかた

○この時計は、自動巻機械式時計(手巻つき)です。
○ぜんまいは時計を腕に着けた状態では通常の腕の動きで自然に巻き上がります。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くことができます。
○止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずを回しぜんまいが十分に巻かれた状態にして、時刻を合わせてから腕にお着けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず 0 段位置で右方向(12 時方向)にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向(6 時方向) では空回りするようになっています。
りゅうずを約 60 回転すれば十分に巻き上げることができます。また、ぜんまいはフル巻上げ状態でスリップするようになっております。ぜんまいを切る心配はありませんが過剰な操作はお控えください。

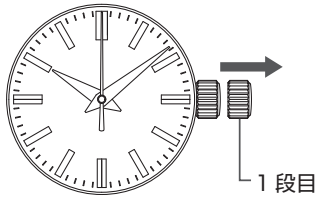
※ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、一日 10 時間以上携帯することをおすすめします。また、時計を腕に着けないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずを回しぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

⚠注意

○ねじロック式の場合は、必ずりゅうずを元通りに締めてください。
○機械式時計は輪列の機構上、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

時刻の合わせかた

① りゅうずを引き出します。
秒針が「12 時」の位置にきたときに引き出してください。(秒針が止まります。)
りゅうずを回して時刻を合わせてください。



② 時報と同時にりゅうずを押し込むと動き出します。
※時刻合わせは、電話の時報サービス TEL.117 が便利です。

■ダイバーズモデルの機能

回転ベゼルの使いかた

回転ベゼルを使って、潜水などの経過時間を測定することができます。

この時計の回転ベゼルは、逆回転防止ベゼルです。ダイバーズウオッチでは、潜水時間がエア残量に影響するため、ベゼル上での経過時間が実際の潜水時間よりも短くならないように、反時計回りにしか回転しない構造になっています。

⚠注意 潜水時には、エア残量の確認をしっかりと行い、回転ベゼルによる経過時間はひとつのめやすとお考えください。

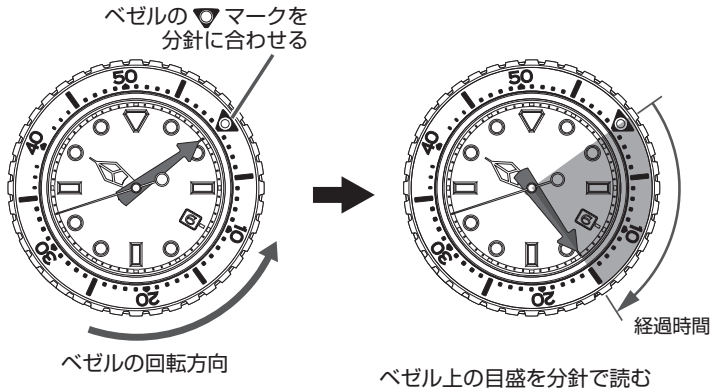
回転ベゼルの使いかた

① 潜水開始時などの時間の測定を開始するタイミングで、回転ベゼルを回して、▽マークを分針に合わせます。

② 経過時間は、分針が示すベゼル上の目盛です。

【例】10 時 10 分に潜水を開始した場合

潜水開始時 **15 分経過時**



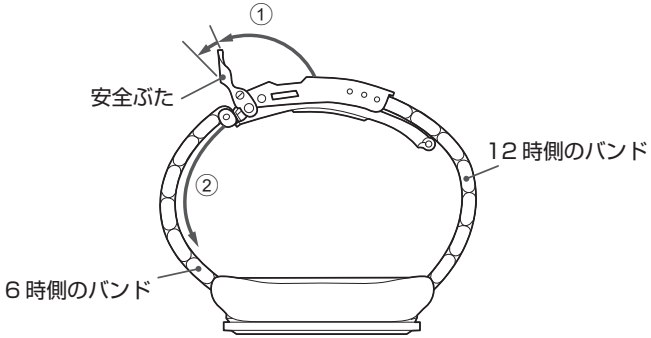
ダイバーアジャスターについて

金属バンドで、ダイバーアジャスター機構がついている場合、バンドの長さを簡単に調節できます。ウエットスーツや防寒着などの上に時計を着用する際などにお役立てください。

ダイバーアジャスターの使いかた

① 安全ぶたを 90 度起こし、さらに 20 度倒し、そのまま軽く押さえる。
※多少抵抗がありますが、軽い力で倒れますので力を入れすぎないようにご注意ください。

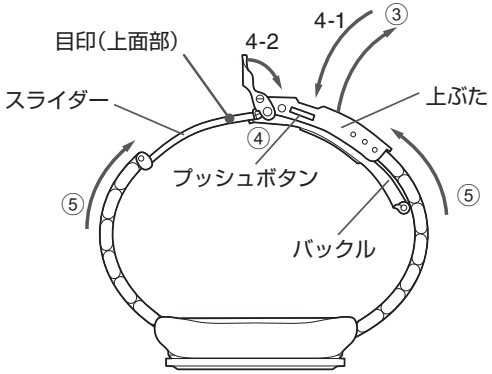
② 6 時側のバンドをバンドのカーブに沿う方向に(曲線を描くように)引く。
※この操作も軽い力でできますので、力を入れ過ぎないようにしてください。
※スライダーは約 30mm 伸びます。無理に引き出さないようにご注意ください。



③ プッシュボタンを押しながら上ぶたを持ち上げて、中留を開き、手首に着ける。

④ 上ぶた(4-1)、安全ぶた(4-2)の順にふたを閉じる。

⑤ 時計を着けていない方の手で、バンドを適当なところまで縮める。



■グランドセイコー規格について

機械式時計の携帯使用時の精度は、ムーブメント(駆動体)構造上の理由により、使用される環境条件の違い(一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢＝時計の向きなど)によって変化します。
「グランドセイコー規格」とは、時計が使用される環境条件の違いによらずに、グランドセイコー機械式時計の優れた性能を確認するために設定されたセイコー独自の機械式時計用精度規格です。
「グランドセイコー規格」の詳細については P.36 をご覧ください。
すべてのグランドセイコー機械式時計は、この厳格な規格に基づく「グランドセイコー規格検定」に合格することを条件としております。ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された様々な環境下において合計 17 日間にわたって時間の進み／遅れ(日差)を計測し、それらの数値が基準内にあるもののみに「グランドセイコー」の称号が与えられます。

お客様が実際に携帯使用される場合の精度は、一日あたり－1～＋ 10 秒(9S86、9S85 の場合は－1～＋ 8 秒、9S27 の場合は－5～＋ 10 秒)の範囲を目安としております。
携帯使用時の精度を正しく判断するには、一日のみではなく、通常のご使用状態で一週間から 10 日間程度お使いになって進み／遅れをみてください。
その一日あたりの平均値が上記目安の範囲を超える場合は、調整をおすすめします。また、次のような場合は保証期間内にも関わらず有料対応とさせていただきます。

- ○誤ったご使用方法や、磁気を帯びさせてしまう等、お客様の不注意により精度の狂いが乗じているとき
- ○弊社以外での修理により精度の狂いが生じているとき
- ○火災または水害・地震などの天災地変により精度の狂いが生じているとき
- ○保証カードの字句を書き換えられた場合

グランドセイコースペシャル規格

グランドセイコースペシャル規格とは、グランドセイコー規格より一層厳しい条件が設定された精度規格です。この規格検定に合格したキャリバーを搭載するモデルはその証として、文字板に「SPECIAL」ロゴマークが表記されます。

グランドセイコー規格の内容

項目	単位	規格値	規格値（ムーブメント径 20.0mm 以下）	スペシャル規格値
平均日差	秒／日	−3.0〜+ 5.0	−3.0〜+ 8.0	−2.0〜+ 4.0
平均日較差	秒／日	1.8 以下	3.2 以下	1.6 以下
最大日較差	秒／日	4.0 以下	6.0 以下	3.0 以下
水平垂直差	秒／日	−6.0〜+ 8.0	−8.0〜+ 10.0	−5.0〜+ 7.0
最大姿勢偏差	秒／日	8.0 以下	13.0 以下	7.0 以下
第一温度係数	秒／日／℃	−0.5〜+ 0.5	−0.6〜+ 0.6	−0.3〜+ 0.3
第二温度係数	秒／日／℃	−0.5〜+ 0.5	−0.6〜+ 0.6	−0.3〜+ 0.3
復元差	秒／日	−5.0〜+ 5.0	−6.0〜+ 6.0	4.0
検定姿勢数		6 姿勢		
検定温度		8℃, 23℃, 38℃		
検定日数		17 日間		

グランドセイコー規格の用語説明

項目	意味
検定姿勢	時計性能の様々なテストを実施するために、国際規格 ISO3159 で 5 方向の向きが規定されている。GS 検定ではそれに加え、12 時上姿勢を追加し 6 方向としている。（文字板上、文字板下、12 時上、3 時上、6 時上、9 時上）
平均日差	異なる 6 姿勢で各 2 日ずつ実測した合計 12 の日差データの平均値のこと。時計の一日あたりの基本的な進み・遅れを示す目安だが、実際の精度実力は、他の項目を含めた総合的な判断が必要である。
平均日較差	異なる 6 姿勢で各 2 日ずつ実測した際の一日目と 2 日目の日差の変化量 6 データの平均値のこと。各姿勢での日毎の精度がどの程度安定しているかを示している。
最大日較差	異なる 6 姿勢で各 2 日ずつ実測した際の一日目と 2 日目の日差の変化量 6 データ中の最大値のこと。日毎の精度が、姿勢によって最大どの程度変化しているかを示している。
水平垂直差	日常生活で最も使われると想定される 2 姿勢における進み・遅れを表す。時計を文字板上姿勢で置いた場合の 2 日間の平均日差と、6 時上姿勢で置いた場合の 2 日間の平均日差との差。
最大姿勢偏差	試験初期の 12 日間の日差と、平均日差との差の最大値。時計の置き方により、日差がどの程度変化しているかを表す。
第一温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から 8℃までの環境での 1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕から外した状態を想定）での進み・遅れを示している。
第二温度係数	同一姿勢（文字板上）において、38℃から 23℃までの環境で 1℃あたりの日差の変化量。時計が使用される温度環境（腕に装着した状態を想定）での進み・遅れを示している。
復元差	検定最後の一日の日差から最初の 2 日間の平均日差を差し引いた値。時計をある一定期間使用後に、日差がどの程度安定しているかを表す。

グランドセイコー規格検定合格証明書について

○グランドセイコー規格検定合格証明書は、ケース組込み前のムーブメント単体の状態で、製造工場内の人工的に管理された環境の下で計測した実測値が、グランドセイコー規格検定に合格したことを証明するものです。搭載されている機種番号、個別のムーブメント製造連番およびケース製造連番が印字されています。

○機械式時計の携帯使用時の精度は、お客さまそれぞれのご使用条件（一日の腕の運動量によるぜんまいの巻上げ具合、温度環境、姿勢[時計の向き]など）によって変化するものです。従いまして、お客さまが実際に携帯使用される場合の精度はグランドセイコー規格に定められた各項目の数値とは異なることがあります。

⚠注意

グランドセイコー規格検定合格証明書を紛失された場合の再発行はできません。
また、時計を修理・調整した後の再発行もできません。

機械式時計の精度についてご注意事項

機械式時計はぜんまいが巻き解ける力を動力にして針を動かし、小さな金属部品同士が物理的に働き合って精度をコントロールする機構です。機械式時計の繊細な金属部品は、温度や重力、衝撃などの外部環境や、携帯時間やぜんまいの巻上げ量といった使用状況の影響を受けやすく、それが時計の進み／遅れとして現れてきます。

① 機械式時計の精度は「平均日差」

クオーツ時計の精度は月差±15 秒や年差±10 秒というように、月や年単位で表されます。これは、一ヶ月あるいは一年を通して使った場合にトータルの精度誤差がどの位であるかということを示しています。

これに対し機械式時計の精度は「平均日差」で表すのが一般的です。

機械式時計の精度は様々な使用環境の影響を受けて毎日微妙に変化し、一定していないのが普通です。そこで一日のみではなく、一週間から 10 日間程度使用した場合の平均値を見て精度の良し悪しを判断する必要があります。

グランドセイコー機械式時計の携帯使用時の精度は、一日あたり－1～＋ 10 秒（9S86、9S85 の場合は－1～＋ 8 秒、9S27 の場合は－5 ～＋ 10 秒）の範囲を目安としております。通常のご使用状態で、一週間から 10 日間程度お使いになった際の平均値がこの目安範囲を超えてしまう場合は、調整をおすすめします。

※ご使用期間が長く、部品が経年劣化している場合にはご希望の精度に調整できないこともありますので予めご了承ください。詳しくは P.39 をご覧ください。

② 精度に影響を与える要素：その 1 ぜんまいの巻上げ量

機械式時計をより良い精度でお使いいただくためには、ぜんまいからなるべく一定した強いエネルギーが各部品に供給されることが必要です。

ぜんまいがいっぱいに巻き上げられている状態では精度も安定していますが、ぜんまいがほどけてきて供給されるエネルギーが弱まると、精度を制御する部品が外部からの影響を受けやすくなり、精度も不安定になります。

安定した精度でお使いいただくためには、ぜんまいが十分に巻き上げられた状態でご使用することをおすすめします。

③ 精度に影響を与える要素：その 2 温度の影響

機械式時計の部品は金属製なので、温度の変化によって微妙に伸び縮みし、それが精度に影響を与えます。一般に高温下では遅れがちに、低温下では進みがちになります。

④ 精度に影響を与える要素：その 3 姿勢（時計の向き）による差

機械式時計の精度に関わる部品は、地球の重力からも影響を受けています。例えば時計を水平にしたときと、12 時側を上にして時計を立てて置いたときでは、進み・遅れが変わります。

時計を腕に着用しないときは、置きかたによって着用中に生じた精度の誤差をある程度補正することもできます。様々な向きをお試しになり、ご自分の時計に合う置き方を見つけてください。

■ ご注意いただきたいこと

アフターサービスについて

保証と修理について

- ○修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談室にご依頼ください。
- ○保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証カードを添えてお買い上げ店へお持ちください。
- ○保証内容は保証冊子に記載したとおりです。
  保証冊子をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- ○保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。
- ○保証期間終了後の有料の内装修理・オーバーホールは、コンプリートサービスとなります。
  コンプリートサービスとは、内装修理・オーバーホール時にケースや金属バンドに簡単なポリッシュ（表面を整え、つやを出すサービス）を施すものです。

補修用性能部品について

- ○この時計の補修用性能部品の保有期間は通常 10 年を基準としています。補修用性能部品とは、時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。
- ○修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

- ○長くご愛用いただくために、3 年～4 年に一度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。
- ○この時計のムーブメントは、機構の性質上動力を伝達する歯車部分に常に力が加わっています。これらが常に機能するためには、定期的な部品の洗浄、油の交換、精度調整、機能チェック、消耗品の交換などが大切です。特にお買い上げ後 3 年～4 年の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）を行うことが、長く使用するためには重要です。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。

  またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。

  点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。
- ○点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

保証について

取扱説明書にそった正常なご使用により、保証期間内に不具合が生じた場合は、下記の保証規定によって無料で修理・調整いたします。

保証の対象部分

○時計本体（ムーブメント・ケース）および金属バンドです。

保証の適用外

保証期間あるいは保証対象部分であっても、次のような場合には有料になります。

○皮革・シリコン・布などのバンドの交換
○ご使用中に生じるケース、ガラス、バンドなどへの傷・汚れなど
○事故または不適切な取り扱いによって生じた故障および損傷
○火災・水害・地震等の天災地変による故障および損傷
○保証カードの字句を書き換えられた場合
○保証カードのご提示がない場合

保証を受ける手続き

○不具合が生じた場合は、時計に必ず保証カードを添えてご持参の上、お買い上げ店にご依頼ください。
○ご贈答、転居などによりお買い上げ店での保証が受けられない場合は、弊社お客様相談室に保証カードを添えてご依頼ください。

その他

○修理の際、ケース・文字板・針・ガラス・バンドなどは一部代替品を使用する場合があります。
修理用部品の保有期間は「補修用性能部品について」→ P.39 をご参照ください。
○金属バンドなどの調整は、お買い上げ店または弊社お客様相談室にご依頼ください。
その他の販売店では有料もしくはお取り扱いいただけない場合があります。
○保証は、保証カードに明示した期間・条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。
これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お手入れについて

日ごろからこまめにお手入れしてください

○りゅうずを引き出して洗わないでください。
○水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
○海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。

※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
「キャリバー番号および防水性能ご確認のお願い」→ P.10

りゅうずは時々回してください

○りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。
○ねじロック式りゅうずの場合も同様です。
「りゅうずについて」→ P.18

バンドについて

バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いとバンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。
長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。

金属バンド

- ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
- 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
- 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
- バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。(時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護しておきましょう。)
  残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
- チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
- さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
- 万が一、ピンが飛び出している場合は、怪我をするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

皮革バンド

- 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
- 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
- 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
- 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
- 時計本体が日常生活用強化防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

シリコンバンド

- 材料の特性上、バンドに汚れがつきやすく、しみこんだりして、変色を生じることがあります。汚れた場合は、ぬれた布やウェットティッシュ等ですぐにふきとってください。
- 他の材料に比べ、亀裂が生じた場合そこから切れてしまう恐れがあります。先の鋭い刃物などで傷つけないよう、ご注意ください。

かぶれやアレルギーについて

バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。

バンドサイズのめやすについて

バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。
時計を着けた状態で、指一本入る程度が適当です。

耐磁性能について(磁気の影響)

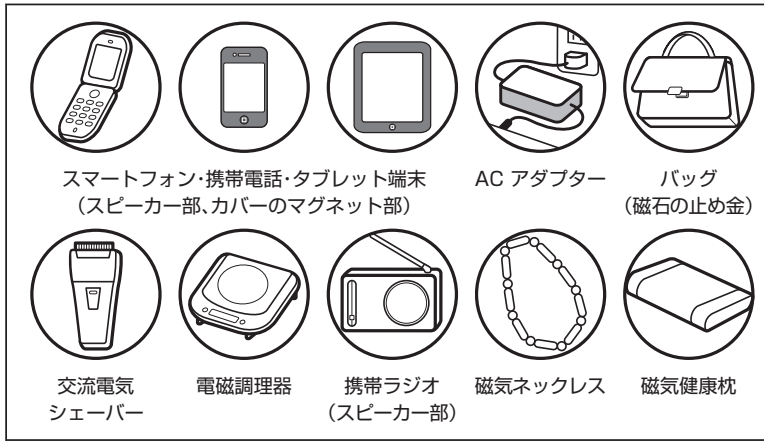
この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

裏ぶた表示	お取り扱い方法	保証水準
耐磁性能表示なし ※ダイバーズモデルの場合	磁気製品より 5cm 以上遠ざける必要があります。 (JIS1 種)	4,800A/m
⊂⊃		
⊂⊃	磁気製品より 1cm 以上遠ざける必要があります。 (JIS2 種)	16,000A/m
MAGNETIC RESISTANT 40000A/m	日常生活のみならず、特殊作業環境下において磁気製品に 1cm まで近づけたとしても、ほとんどの場合性能を維持できます。	40,000A/m

※A/m(アンペア毎メートル)とは、磁界の強さを表す国際単位(SI 単位)です。

磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例



この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているひげぜんまいが、外からの強い磁力の影響を受けます。

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間(約 10 分間:500 ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約 3 時間〜5 時間)発光します。光が当たらなくなってから輝度(明るさ)は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。始めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。(目の暗順応)

※ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)塗料です。

照度のめやすについて

環境		明るさ(照度)のめやす
太陽光	晴れ	100,000 ルクス
	くもり	10,000 ルクス
屋内(昼間窓際)	晴れ	3,000 ルクス以上
	くもり	1,000〜3,000 ルクス
	雨	1,000 ルクス以下
照明(白色蛍光灯 40W の下で)	1m	1,000 ルクス
	3m	500 ルクス(通常室内レベル)
	4m	250 ルクス

こんなときには

現象	考えられる原因	このようにしてください
時計が止まった。	ぜんまいが巻かれていない。	ぜんまいを手で巻くか、または数回振れば動き出します。 それでも、動かない場合は、お買い上げ店にご相談ください。
時計が進む／遅れる。	暑いところまたは寒いところに長く置いた。	精度は、常温にもどれば元にもどります。
	磁気を発生するもののそばに置いた。	精度は、元にもどりません。元の精度に戻すためには、脱磁(修理)をする必要があります。お買い上げ店にご相談ください。
	落としたり強くぶつけたり、または激しいスポーツをした。強い振動が加えられた。	精度は、元にもどりません。お買い上げ店にご相談ください。
	3 年を越える長期間、分解掃除による点検調整を行っていない。	お買い上げ店にご相談ください。
日付が日中に変わる。	時刻合わせが 12 時間ずれている。	12 時間、針を進めて時刻および日付を合わせ直してください。
ガラスのくもりが消えない。	パッキンの劣化などにより時計内部に水分が入った。	お買い上げ店にご相談ください。

※その他の現象は、お買い上げ店にご相談ください。

■製品仕様(ムーブメント)

機種	9S86、9S85
基本機能 (共通)	時針、分針、秒針、日付表示
基本機能 (9S86 のみ)	24 時針、日付連動式時差修正機能
振動数	36,000 振動／時間(10 振動／秒)
GS 規格 精度	平均日差※　−3 秒〜+ 5 秒
GS スペシャル規格 精度	平均日差※　−2 秒〜+ 4 秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻(手巻つき)〉
持続時間	最大巻上時約 55 時間以上
使用石数	37 石

機種	9S66、9S68、9S65、9S61、9S64、9S63
基本機能 (共通)	時針、分針、秒針
基本機能 (9S66、68、65 のみ)	日付表示
基本機能 (9S66 のみ)	24 時針
基本機能 (9S63 のみ)	パワーリザーブ表示
振動数	28,800 振動／時間(8 振動／秒)
精度	平均日差※　−3 秒〜+ 5 秒
駆動方式	9S66、9S68、9S65、9S61: ぜんまい巻〈自動巻(手巻つき)〉 9S64、9S63:ぜんまい巻(手巻)
持続時間	最大巻上時約 72 時間以上
使用石数	9S66、9S68、9S65:35 石 9S63、9S61:33 石 9S64:24 石

機種	9S27
基本機能	時針、分針、秒針、日付表示
振動数	28,800 振動／時間(8 振動／秒)
精度	平均日差※　−3 秒〜+ 8 秒
駆動方式	ぜんまい巻〈自動巻(手巻つき)〉
持続時間	最大巻上時約 50 時間以上
使用石数	35 石

平均日差※：ケース組み込み前のムーブメントを 6 姿勢で 17 日間、人工的に管理された環境下に固定して測定した日差の平均値です。

注意:ご使用になる条件(携帯時間、温度環境、巻上げ具合等)によっては、上記精度の範囲を超える場合がありますので、実際に携帯使用される場合の精度は一日あたり−1〜+ 10 秒(9S86、9S85 の場合は−1〜+ 8 秒、9S27 の場合は−5〜+ 10 秒)の範囲を目安としております。

※上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

セイコーウオッチ株式会社